

ラミネート工業株式会社

松浦 取締役部長

独自のノウハウを駆使した ラミネート金属板

～環境に優しい無接着剤・無溶剤加工技術の
開発・供給により環境保全に貢献～



■技術・製品の概要

本製品は、金属板とプラスチックを熱圧着するラミネート技術を用いた金属製の内装材です。具体的には金属板にプラスチック(化粧フィルム)ラミネートする方法と、金属板と表面素材(布、和紙、つき板等)の間にプラスチックを接着剤の代用として挟んでラミネートする方法がありますが、接着剤を用いないことからシックハウスの原因となっているホルムアルデヒドなどを発生しません。

■申請後の改良点について教えてください。

平成16年度に府へ申請した技術は、建築用内装材のうち消防法の適用外となる事務所・住宅等の用品や店舗内装用のものでしたが、その後、消防法に対応できる難燃・防災機能を組み合わせた開発を行いました。

なお、この技術は中国、韓国、アメリカ、台湾に特許申請し、既に韓国と日本において特許を取得しております。

■今後、どのような製品への展開をお考えですか。

現在は中国、韓国、台湾など海外中心に営業活動を展開していますが、中国では本技術が内装関係の雑誌に紹介され、マンション扉やシャッターの製造会社と事業調整しているところです。例えば、金属製扉の表面を暖かい木目調の模様にした商品への適用などです。

本技術は塗装よりコスト高とはなりますが、美観に優れているだけでなく、接着剤を使わないためシックハウス対策として適用できます。特に中国では、内装材を自分で選択して施工するため、富裕層向け商品としての市場性はあると考えています。

また、建築物の内外装に加えて、電車や自動車などの車体外装(塗装の代替として)への適用を考えています。韓国では電車の車両外装の話を進めています。

この技術の適用により塗装の工程やライン数を減少させることが可能となり、CO₂やVOCの排出削減につながるものと思います。例えば、日本車の外装は10回程度の塗装工程がありますが、本技術の適用によって塗装回数が減少し2、3回程度で済むこととなります。

当面は、日本で開発しフィルムを持ち込み、現地の製造ラインで商品を生産することになりますが、今後はラミネート技術を進化させ、新たな用途への技術開発やコストダウンを図っていく必要があります。



排気ダクトへの適用例

■海外への展開のきっかけを教えてください。

海外への営業展開の際に、商社からの企業紹介は受けておらず、自ら営業活動をしています。

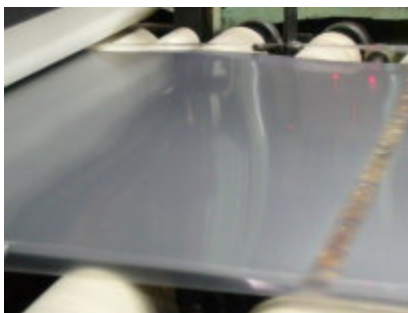
環境展などの現地の展示会等におけるマッチングがきっかけとなり、人的ネットワークを活用して海外展開してきました。海外の方は、祖国に導入されていない技術を現地で導入したいという強い希望を持っています。

中国は取り引きする際に、大手企業か否かではなく、保有する技術の高さで判断していると思います。

■当事業の活用方法を教えてください。

公的機関で技術評価していただいていることから、当技術への信用が増したと思います。

当事業の技術評価書の写しをパンフレットに挟みこみ、展示会等で配布しています。



ラミネート圧着工程



冷却工程



完成品